



寺報

2022年(令和4年)

No. 321

8月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁

高名なお坊さん(その8)

一休禪師 室町時代の禅僧



名は宗純、幼名は千菊丸。父親は南北朝統一の象徴となった北朝の後小松天皇。母親は藤原一族の日野中納言の娘、伊予の局。千菊丸が政争に巻き込まれることを恐れた伊予の局は、5歳になった千菊丸を臨済宗の安国寺に入れ、出家させた。



傍らに朱太刀を配した一休宗純の頂相(酬恩庵蔵)

16歳になった千菊丸は、11年間修行に励んだ安国寺を去り、学問に秀で、徳に優れた西金寺の謙翁宗為の元に弟子入りし、宗純と名乗る。

34歳になった一休は、一人でも多くの人に仏教の教理を分かりやすく説くために、近畿一円を転々と説法行脚して回った。真の仏教とは何かを追求し、庶民に教えを説きながら、各地を旅した一休。次第に庶民の間で一休の人気は高まり、ついには生き佛とまで称せられるようになる。

多くの宗教家や文化人が一休と交流をもち、その中でも特に親交が深かった人物が、浄土真宗の中興の祖である蓮如上人である。宗派が違えば排斥しあう世に、一休はこんな歌を残している。「分け登る 心もとの道は多いけど同じ高嶺の月をこそ見れ」(真理の山に向かう道はそれ違うが、同じ行き先を私たちは見ているんだな)。



一休禪師木像(酬恩庵蔵)



『夏の子ども会』
(2019年7月26日開催)

は、それは一つの楽しみがありました。
コロナ禍になって、今まで当たり前に出来ていたことが、全く出来なくなりました。早く、コロナが終息して欲しいと、心から願います。
来年こそは、『夏の子ども会』、きっと開催できるでしょう。

『夏の子ども会』に参加してくれた子ども達と、数年後に法事で再会することもあります。成長した子ども達に出会えるのは、私にとって

私が住職を継いでからも、毎年、この『夏の子ども会』を開催してきましたが、私が小学生の頃と同様、参加された子ども達は大いに楽しんでくれました。

夕方に終わって、アイスキャンディーを貰つて帰宅。と言つても、私は、本堂横の庫裏(自宅)に帰つていました。

学校の給食とは違つて、とても美味しいのです。お昼ご飯は、仏教婦人会役員さんが作られたカレーを食べていました。小

時間は嫌いでしたが、昔は腹話術での法話があつたり、本堂内でゲームをして、とても楽しかったことを覚えています。お昼ご飯は、仏教婦人会役員さんが作られたカレーを食べていました。小学校の給食とは違つて、とても美味しかったものです。

住職レター

『初参式』の次は、『夏の子ども会』です。例年ですと、夏休みに入った七月の終わり頃に開催。しかし、このコロナ禍で、二二二年、開催できませんでした。今年こそは、「もう丈夫!」と思つていたのですが、また今年も取り止め。

〒739-0036 東広島市西条田口500-4
TEL(082)425-1357 FAX(082)425-1248